

令和元年度第6回放課後子どもプラン運営委員会会議録

日 時 2月18日(火) 午前10時00分から11時40分

場 所 前原暫定集会施設A会議室

出席者 田中委員長、浦野副委員長、石原委員、志波委員、佐藤委員、多田委員、大久保委員、増山委員、黒田委員

関生涯学習課長、菊池図書館長、林公民館長、浜田指導室長、鈴木児童青少年課長、富田子育て支援課長

富沢コーディネーター、伊藤コーディネーター、小岩コーディネーター、成田コーディネーター、森田コーディネーター、西田コーディネーター、吉田コーディネーター、伊野コーディネーター

鈴木生涯学習係主任

欠席者 前田委員、並木委員、旭岡委員、松井庶務課長

傍聴者 2名

1 議 事

(1) 各小学校区の事業の進捗状況等について報告

【一小】来年度からの全日開催に向け、PTAが行っていた校庭開放を徐々に放課後子ども教室に移行する話を詰めている。

【二小】順調に教室を開催している。学校にも協力いただき、教室が使えなくなったときも別の教室を探してもらっている。

【三小】通常通り三学期の活動を行っている。協議会でも話題に出たが、施設面で常設できる会場がないということが三小の大きな課題。来年度の新一年生の人数によっては、今使わせていただいている視聴覚室が普通教室になるかもしれない。今回学童の施設が校庭に増えたので、校庭が狭くなった。反比例して児童数が増えている。校庭遊びのとき、130、40人ぐらいがいろいろな遊びをして校庭の中で交差している。その中で遊びのルールを見直しましょうという提案を学童のほうにして、現在協議中。

【四小】三学期は雨天中止もなく予定通り実施。来年度は今年の副コーディネーターにバトンタッチする。

【東小】三学期は順調に開催。学校から来年度は、今使っている教室が、新一年生のクラスが増えるために使えないということなので、別の教室を借りることになっているが、そこは一度も使ったこともなく、人数の募集等について各団体と話し合うことになっている。

【前原小】通常通り行っている。学童の参加も月、金に80から90名ほどある。来年度は、週3回行っていく予定である。令和3年度の週4日実施に向けて準備をしていきたい。

【本町小】三学期も順調に週五日開催している。3月の第二週まで開催を予定。年間予算が若干不足するかもしれないと心配していたが雨天中止の学校から回していただき、また三学期は参加人数が若干減るので、安全管理員を教室によっては減ら

す対応をして予定回数を実施することが可能となった。1月末に本町小のアンケートを実施した。

【緑小】三学期も順調に行っている。1月に児童のおう吐があったり、ケガがあったりした。推進委員とマニュアルの再確認をしたり、2月7日の緑小の避難訓練にも参加。緑小は毎週水、木と不定期で土曜、火曜、そのほか低学年の保護者会時に開催している。

【南小】今年度開催回数44回を予定していたが、今まで5月から2月までの活動としていたのを今年度は初めて3月第二週まで開催する予定とし、51回に増える予定。

【事務局】資料説明

【実行委員会】

第8回実行委員会

- ① 各小学校区の現在の予算執行状況と今後の予定
- ② 安全管理員の互助システムについて
- ③ 安全管理員の配置人数の基準の見直し
- ④ 東京都の研修の報告

第9回実行委員会

- ① 安全管理員の互助システムについて
- ② 市のまなびあい出前講座である応急救護の受講について
- ③ 新総合プランになったことで、今後の小金井市としてはどうしていくのか市長の考えを聞きたい。

(2) 協議会の報告について

【事務局】第二回協議会を7校で開催。新プランでは空き教室の活用を求められているが、小金井市では空き教室がなく、普通教室が増えるのが現状なので、空き教室の活用の話が進まない。しかし、子どもたちの安全について話し合うことができ、有意義な協議会となっている。

(3) 本町小週五日開催及びアンケート実施結果について

【本町小】昨年10月から月曜日の校庭開放を実施し、平日週五日開催となった。多目的室という空き教室や校庭、体育館の使用にあたって、優先的に放課後子ども教室に使用させていただくことができた学校のご理解と協力、そして約30人のスタッフさんが非常に意欲的で協力をしていただけたこと、またブックタウンクラブという本町小のPTAのOB組織の人たちが、非常に積極的にご協力いただいたことによる。

平日週五日開催することによって、子どもたちからは習い事がない日など都合のいい日に放課後そのまま参加できる。友達とちょっと遊んで帰ることができるようになったという声。保護者からはアンケートにて、毎日開催していることは、ちょっと用事がある日など放課後子ども教室で今日は遊んできてと言えて安心であるという声が多かった。現在の課題としては三つある。

- ① 校庭開放が6時間目が終わった後の3:15からの開催なので低学年が4時間授業や5時間授業のときは再登校になるので低学年の参加が少ないということ。

- ② 木曜日は申し込んだ人のみの英語教室の開催をしているので、放課後自由に遊ぼうということができない。
- ③ 金曜日は毎回 14:30 からのスタートなので、4 時間授業のときは再登校で参加することになっている。

1 月末に実施したアンケートの結果を報告。これは、全児童に保護者向けに配布、全児童数 526 枚配布し回収数が 271 枚、回収率は 51.5%。特筆すべき項目として、本町小放課後子ども教室を知っていますかという質問に対しては、ほぼすべての方が知っているに○がついていた。参加については、ほとんど毎週参加している、ときどき参加している、を合わせて 4 割以上、年に数回も合わせると 65.3%の参加があった。参加したことがない方も 23%ありましたが、高学年になると公園に行き遊ぶことが多いとか、学童に行っているので参加したことがないという回答が多かった。開催時間につきましては、このままでよいという意見が多かったが、やはり 4 時間め 5 時間めが終わった後そのまま参加できるようにしてほしいという意見もあった。帰宅時間については、今まで通り決まった時間に帰らしてほしいという意見が大半だった。教室の内容についての質問は、ほとんど今のままでよいという意見が大半でしたが、一部ご意見をいただいたところは参考にしながら変えていきたいと思っている。週五日開催について、良いという意見は 95.6%。毎日遊べる場所があるのはとてもありがたいというような意見がほとんど。また就労者のお子さんの安全な居場所になりえますかということについても、考えられるという意見が 91.5%ありましたが、学童の代わりにはありませんとか、終了時間が早い、一度家に帰らずに行けるようにしてほしい、長期休暇の問題がある、という意見をいただいた。また最後のご意見ご感想には、ほとんど全ての意見を資料に網羅していますが、本当に大変たくさんの方から感謝やねぎらいの言葉をいただきました。私たちが考えている以上に保護者の方が放課後の子どもの安全安心な居場所をととても大切に考えていらっしゃる、今は公園などで自由にボール遊びができない、学校で放課後そのまま遊べていざとなれば職員室に先生もいらっしゃるというような場所で子どもたちを大人の複数の目で見守っていただく場所があることがとても大切でありありがとうございますという意見が本当に多かった。またいただいたご意見が多かったのが 4 時間め 5 時間めが終わったら、そのまま参加できるようにしてほしいという意見でした。これについては来年度から具体的に月曜と火曜の校庭開放の日には低学年の 5 時間め授業終了後の空き教室の確保をして 6 時間め終了までの待機場所としてそこで宿題や自由遊びをして待てるようにすることを検討します。また木曜日の英語教室も英語とは別に居場所教室を多目的室を借りて開催し、その日も教室や校庭で遊べるようにしたいと思っている。また今後スタッフのスケジュールを確認して、可能であれば 4 時間授業の日の早時間開催も可能な範囲で検討します。

【委員長】放課後子ども教室が実態としてそれが保護者にどう受け止められているか、問題がどういうところにあるのか、そういうところがかなり明確に出ている。

実施している中で 5 時までと 4 時までとあるが今後の時間調整の見通しは。

【本町小】今 5 時まで開催できていないのは水曜と木曜ですが、水曜日につきまして

は、今度の推進委員会で水曜日は年間の半分の4時間授業の日で、4時間授業の日は1時からスタッフに来てもらうので5時までやると4時間拘束になる。それでもやっていただけるかスケジュールをお聞きして可能であれば5時まで開催しようと思っている。また木曜日にも英語教室と別に居場所教室を設けてそちらは5時まで開催する予定ですので、水曜も5時まで開催すれば、早ければ来年度から全日5時まで開催はできる。あと、6時間め5時間めの低学年の子どもたちの居場所を埋めるべくスタッフをお願いしていこうと思っている。

【コーディネーター】今5時までの開催についてお話が出ましたので、皆様のお考えを伺いたい。二小も夏時間ですと5時まで（水曜日に早く始まる日以外は）。ただ冬時間やはり子どもたちが帰るとき、あまり暗くなってからでは危ないということで4時半までという対応をしている。プランで出されている5時までというのはどの程度実現しなければいけないものなのか、ちょっと迷っていて、そこに書かれているし、もしかしたら5時までいたいという要望があるのかもしれないので、今は夕焼けチャイムを目途にやっているものを5時に変えていく必要があるのかどうか皆さんにお尋ねしたい。

【副委員長】本町小のボランティアさんはPTAのOB OGさんもすごく協力してくださっていると聞いている。実際先ほどの30人のボランティアの中にPTAのOB OGさんが入っていると理解してよろしいでしょうか。

【本町小】30人の中にブックタウンクラブで校庭開放を手伝っていらっしゃる方が20名くらいと私たちの水曜から金曜までの元々の推進委員のメンバーが20名くらいで両方を兼ねていらっしゃる方が10名くらいです。

【委員長】本町小はモデルとして今年度全日制開催したわけですが、これを全校に広げていくことで、通常の2時間だったら手伝えるけれど3時間4時間になると大変という方もボランティアの中には出てくるかと思いますが、そのあたりの点については手当とか人員の問題とか、そういうことについて、どういう点をお考えなのか考えがあったらお聞きしたい。

【内部委員】本町小のアンケートのご報告をいただきました。まずはこのアンケートの実施につきまして大変ご苦勞があったと思います。また本町小の学校の方にも多大なご協力いただきましてこのようなご報告をいただきました。まずはお礼申し上げたいと思います。委員長からご質問がありましたけれども、まずは感想といいますかかなり回収率も高く、様々なご意見もいただいたかと思っております。大変この放課後子ども教室につきまして保護者の方から非常にうれしいご意見をいただいたということは我々行政としましてもうれしい限りかと思っております。あと放課後子ども教室が大変意義ある事業なんだということが改めて認識できたと思っております。

今後の事業展開というところで、放課後のいつでもどこでも安心にということで、全日開催というところで、方針として掲げさせていただいているところですが、全日開催していくにあたっては、課題というものはあるかなと思っております。場所の問題もありますし、あと人員の確保ということも従来からあると思っております。一つ一つですね、一足飛びに解決していくのは難しいと思っております。まず場所の確保につきましては、なかなか普通教室を確保していかなければならない中で、

どこの場所で運営していくか、協議会を通じて協力いただいている。人員の確保ということで、謝金につきまして今年度多少ですけどアップさせていただきました。まだまだ他市の状況に比べますと決して高い水準ではないと思いますが、我々行政としましても限られた予算の中ではございますが環境整備に努めていかなければならないと思っています。

この後の議題で来年度以降の五日制のことをお話いただけるとかと思います。令和3、4、5年とこの事業をどのように進めていくかは、一步一步着実に、地域の実情、今まで積み上げてきたものを尊重しながら進めていくべきものかなと思っています。

【委員長】具体的にこのようなアンケートによって、初めて放課後五日制が実施されている状況が皆さんにお分かりいただいたかと思います。

(4) 来年度週五日開催に向けて

【事務局】全ての児童の放課後の安全安心な居場所を確保するという新放課後子ども総合プランに基づき、子どもたちが放課後いつでも自由にいられる場所の整備を優先しつつ、各学校の状況に合わせ、地域の特性を活かしながら多様な体験活動の場を充実させるために、全日開催を広めていきたいという考えのもと、本町小に続きまして、来年度二校で全日開催を行う準備を現在コーディネーターの方に行っていただいています。現状の課題等コーディネーターの方にお話しいただきたいと思っています。

ア 一小

【一小】まだ、実際に行ってみてからいろいろ出てくるかと思う。とりあえず頭の中では、月曜日から金曜日までこのおたよりに書いたように、子ども向けにわかるようにしてほしいという保護者の意見があったので、子どもにもわかるように書いてあるので、このようにしたいと思う。現状の課題としては、本当に細かいこと、謝礼の計算や渡すのがとても大変になるとか、スタッフへの連絡やシフトの組み方とか、その辺のことを細かいところを詰めていかなければならないことがこの先ある課題かと思う。

イ 二小

【二小】お手元の活動カレンダーを見てください。来年度の4月から3月の予定が載っております。学校が始まりまして授業がある給食がある日を全部対象にしております。そうすると193回ということです。開催時間は基本的に5時間めの終了後、夕焼けチャイム、だいたい14時半から17時、準備と片付け含めて活動時間が3時間ということで、今の謝礼金がだいたい3時間で1回分という形で考えられていますので、ちょうどいい時間かと思っています。水曜日は学校の時程に合わせて5時間め終了後ですとちょっと早めになりますので、他の曜日と同じく5時までやってしまうと他の曜日より30分超過してしまうので、現在のところ4時半までという対応をさせていただいています。保護者会などちょっと早めにやらなければならないということはないのですが、やってあげた方が子ども居場所に困らないだろうなという時は、早めにやって早めに終了といった対応とさせていただいています。これは今まで月水金という形で同じ考えでやってきたのですけれど、来年度はそこに火曜日と木曜日に校庭遊びを入れようと思っています。今まで月水金でだいたい百数回だったものに校庭遊びを入れることによって年間193回になります。

二小の場合は、今までの月水金の教室で、その日その日によって子どもの参加人数に波があり、十人以下の時もあり、二十人、三十人を超えてしまうときもありますが、想定としては二十人から三十人くらい来るだろうなという形で、安全管理員を一回当たり三人ということで考えて計算しています。あと居場所教室が強調されているので体験というのが必ずしもしなくてもいいのかなと思っているのですが、工作とかできるということも楽しみにしている子どもたちもいるので、週に二回の体験のための人数は確保させていただきました。あとは年3回、その193回の中に含まれるのですけれど、イベント的に保護者会で人数が多いただろうとか、夏休み前にやっている水風船合戦とか、クリスマス等そういうイベントごとのときは多くなると思うので、その場合も安全管理員を少し多めに取らせていただいたという予算建てになっています。三名で少ないかなと思いつつも二小の場合は学習アドバイザーをほとんど自校スタッフでまかなえているので、もちろん外部から来ていただくこともあるのですが、学習アドバイザーも含めて見守りにあたっていただけるという強みがあるので、そこで見守りの目がプラス一人確保されるのかなというのと、あとはどうしても心配なのは、きつきつの予算で1回あたり三名というのしかとっていないので、もし何かあった時には、その都度相談だと思えるのですが、多少無償のボランティアを入れることも考えつつやっっていこうと思っています。

裏面にサンプルがついていますが、来年の4月です。実際4月頭から週五日開催できるかどうか不安ではいたのですが、今いるスタッフ、全部で32名、うちほとんどお休みしている人が7名なのですが、先日一か月あたり何回くらいお手伝いできますかと聞いたところ、マックスで85人分の数が見込めたので、カレンダーの方に回数を書いてありますが、6月と10月が最大の回数でひと月で22回やることになっています。その時22回だと安全管理員66人、学習アドバイザー9人なのですが、75人なのでまかなえることができるかなと思い実施しようと思断しました。

場所の問題ですけど、今までの月水金はどこかしら場所は用意していただけるという恵まれた環境の中で、たいてい総合ルームでスタートして活動によって図書室に行ったり、体育館に行ったりということをしていました。校庭の場合は、試験的にやるときも雨のときは総合ルームを使わせていただけるということで考えておりましたので、雨による中止はなしになっています。協議会でも一つ課題に出たのは、スタートの教室、どうしても授業の都合で総合ルームを6時間めに使うので今日は使えないとか、図書室は今日は授業がありますとか、急に使えなくなった時も別教室を用意していただけたのですが、どうしてもたまに子どもがうろうろしているような状況がありまして、集合する教室というのが一つ決まっていると子どもも迷わなくて安定的にやることができますよねということを考えてくださって、まだ確実ではないですが、一年生の算数教室が6時間めがないのでそこを考えてくださっているようです。そういう形で教室が確保できましたので 変わった時に、毎日どこかしらでやるということも大丈夫だと思います。課題については、予算がきつきつだということと、あと本当に三人という、それで大丈夫だと思って配置はしているのですが、何かあったときにもしかしたら、例えば後半、後半だと3年生とか4年生以上が後から参加してきて人数が増えるといった場合に、安全管理員の配置もほしくなるかもしれないの

ですけど、例えば3時間となっているところを2時間後半分だけ見て下さるスタッフを入れることができればそこはこころ強いかなと思って、それも一つ課題かと思っています。

【副委員長】一小さんに質問。今二小さんからは来年度のスタッフの見込みの人数がでてますけれど、一小さんの方はスタッフの見込みの人数はいかがでしょうか。

【一小】今までの元々のスタッフが30人くらいいるので、どこの学校も30人ぐらいで回せているというので、大丈夫かなと思うのですが、今までのスタッフの頻度は、月に一回ぐらいの参加で回してたものなので、多分毎週とかになると「えっ」と思うスタッフもいらっしゃるかなと思っています。それに向けて一応、このように一小の放課後が変わるということ、あとジャノメの跡地が子どもの遊び場にならなくなってくるかもということのアナウンスしながら、今新規に新しく保護者向けにスタッフ募集の呼びかけをしています。12月に一度行って、そこで十数名、次3月に行って、その次に今度新学期になったらもう一回行おうと思っているので、そこで回せるだけの人数は確保できるかなと思っています。

【外部委員】これから一小、二小が新年度から全日開催ということでこういう計画を出されておりますけれど、すでに本町小では半年ほど実施をして先ほどアンケートをいただきました。そこで一小、二小さんの本町小でのアンケートを見る限り非常にうまくいっているように見えますが細かいところでいろいろ課題もあるようですが、一小さん二小さんが、本町小のアンケートを聞いて、この計画でいけるのか、あるいは何か考え方を変えたほうがいいのか、いろいろお考えがあるかと思いますが、感想をお聞きしたいと思います。

【一小】本町小さんの感想を見て、すごくなんか明るい気分になって、保護者の人はこんなに喜んでくれているというふうに、すごくこうだったらうれしいなと思いました。

【二小】二小の子どもたちが教室に対してこういうことを希望していますということが書いてあるのがすごい参考になるかなと。子ども一人ひとり違うと思うけど、やりたいこととか、経験したいことというのは、同じようなことかなと思うので、そういうところとか、あと保護者の方のお話、これは二小からのアンケートではないんですけど、一つ一つ読んで参考にしていけたらいいかなと思っています。

【委員長】これで9校のうち三分の一、3校が全日開催という、まだまだ先は長く、いろいろ問題が出てくるかと思いますが、特にコーディネーターの負担とか参加ボランティアの負担が非常に増えていきますので、それらをどうクリアしていくかいろいろ問題が今後出てくるかと思いますが皆さんのいろいろなご意見等いただき来年度に向けて、ともかく全日開催に向けての準備を進めてまいりたいというのが現状のようですので、ご理解いただければと思います。

(5) 「安全管理員」を「こどもサポーター」への名称変更について

【事務局】来年度から安全管理員という名称をこどもサポーターという名称に変更を予定しております。安全管理を行いながら、子どもの心に寄り添ってほしいという願いを込めまして、こどもサポーターという名称にしたいと考えております。要綱ですが今日お配りしております水色の冊子にその要綱がありまして、21ページの第10

条のところに安全管理員という名称がありまして、22ページには第5条と第6条のところに安全管理員という名称がありますので、そこを子どもサポーターという名称に変更したいと考えております。

【委員長】これは行政の方で今までの安全管理員という名前は厳しいというか、親しみやすい名称に変えていきたいという行政側の方の考えですけれど、特にご異論はないかと思っておりますのでご理解いただければと思っておりますがよろしいですか。

(6) その他

【委員長】それではその他に参ります。資料がありまして緑小のコミュニティースクールについての報告があるということです。

【内部委員】資料は、今日は情報提供です。緑小学校が一年かけてコミュニティースクールの研究校として研究していただきました。今度の4月より正式にコミュニティースクールとして指定していくということで、この一年間の研究の成果がここにまとまっている。報告書が先週、校長からいただいたところで、皆様に情報提供ということで概要版になります。

【外部委員】コミュニティースクールと地域学校協働本部の関係について、前回、車の両輪になってということの説明があったが、コミュニティースクールは学校のしくみを検討していく場であると思うし、地域学校協働本部はコミュニティースクールで方針を決めたことを具体化し実施していく、そういうような形、システムになっているのかと思うが誤りでしょうか。

【内部委員】お配りしている資料の2ページめを見ていただくと、小金井型のコミュニティースクールが目指しているものは、学校運営協議会と地域学校協働本部これが連携協働として密に関わり合って進めていくのが、これから目指すコミュニティースクールです。地域学校協働本部の中に、PTA、おやじの会があって、放課後子ども教室があるところというようなイメージでこれをまとめていくのが地域コーディネーターだということで、これと学校運営協議会が一体となって学校をつくっていくと、こういうイメージでいただければ。

【委員長】今いるコーディネーターがそれを行うのか。

【内部委員】放課後子ども教室のコーディネーターとは別です。地域コーディネーターは全体をコーディネートする。

【委員長】地域コーディネーターはどこが、だれが選ぶのか。

【内部委員】地域の方の人たちから教育委員会から委嘱させていただきます。各学校区の地域に精通された方、学校にかかわる活動をされている方。

【委員長】それはここでの議題になるか。

【内部委員】情報提供ということで、議題という形ではないかもしれないが、現状の報告をさせていただく。

【外部委員】地域未来塾と放課後子ども教室が並んで書かれているが、地域未来塾がここでの議論体制になったりするのか。

【内部委員】放課後子ども教室は従前からずっと行っているが、社会教育法の改正によって学校を核とした地域づくりで、いろいろな活動をしていただくという中で、放課後子ども教室が地域学校協働活動として一つの活動の例になったと認識して

いて、同様の例としての、地域未来塾というのは他市でもやっており、小金井でも展開していければと思っている。文科省のはあくまで例であって、放課後子ども教室や地域未来塾や登下校の見守り、花壇の整備だったり、それぞれ各学校の実情に必要に応じて、その学校が必要としているものを学校運営協議会で議論いただく。それをフィードバックして地域学校協働本部で実働していく。よく両輪と言われるのですが、そういう形で進めていくものなのかなと思っているところでございます。

【委員長】わかりましたか。

【外部委員】なんとなく。小金井型コミュニティースクールということで、今緑小を取り上げてこうなっているのですが、これだとあくまでも学校と地域学校協働本部が1対1みたいに見えるのですが、例えば中学校区まで含めたときにこのイメージというものはどういうふうになるか教えていただきたい。

地域というふうに見たときに、小金井でいう地域というのは例えばP連なんかだと中学校が中心になってその下に小学校がある。でもその小学校も一つの小学校から全部の児童が同じ中学校に行くとは限らない中で、健全育成であり、子供会にせよそういうものが地域というものがきれいに分かれるような状態ではないかと思う。そうやって中学校とも小学校とも協働本部を置こうとしたとき、どうしてもこの地域は中学校に向くのか小学校に向くのか、そこらへんが協力するものとしては気になるところです。

【内部委員】地域学校協働活動につきましては、社会教育委員の会の中で視察に行きまして、三鷹市さんは小金井と違って一つの小学校の中で中学校の学区域が違うことはなく、その学区域の中で地域学校協働活動が展開されている。小金井の場合は、今おっしゃっていただいたとおりですので、どういった展開をしていくのかというのは一つ課題というか検討していかなくはないかなと考えています。

この地域学校協働活動の議論の場ではないと申し上げましたが、今後に向けてどういう風にやっていくかというのは来年度緑小で地域学校協働活動を先行実施という形を考えているのですが、小金井の実情に合わせてどういうふうに進めていくか中学校区を含めてどういう風にやっていくかというのは、まずはやっていく中で検討していく課題かなと思っているところでございます。

【委員長】これをやるには別の審議会を作った方がいいのではないか。ここはあくまでも放課後子どもプランのところなので、関連があったので報告を受けた。とりあえず今日はそういう報告を受けたということで、今後行政側がどう整理するかそれを見極めながら来年度新しい委員になるわけですけどその場でご検討いただければと思います。

【コーディネーター】先ほどの安全管理員の名称変更についてですが、子どもサポーターという言葉ですが、子どもに関係することに関わっている方対象の研修プログラムがあるのですが、教育支援人材認証協会が子どもパートナーと子どもサポーター、子ども支援士という資格がいただける講座を開いている。その中にある子どもサポーターというのが、受講希望者の関心がある分野あるいは得意とする分野の支援のために子どもパートナー講座を踏まえ、それぞれの分野領域における研修をし

ます。それらの講座を受けた人が子どもサポーターという資格を認証されるとなっています。安全管理員を子どもサポーターという呼び方に変えた場合、こういうことをご存じの方が安全管理員の方は皆この講座を受けて資格を持っている方々だという誤解を生みかねない、という心配があります。あと文部科学省の放課後子ども教室のサイトを確認しましたら安全管理員という呼び名が変更になっている様子がないので、ここで名称変更する合理的な理由を感じられない。

【委員長】 それらのことについての検討をしたうえでのことか。

【事務局】 検討はしていない。

【コーディネーター】 今後週五日制に入っていくときに、おそらくですけど実施回数が増えるにしたがって、こちらの方の対応力が必要になってくると思う。実施日数が増えるということは、けがや事故、またはトラブルの回数も増えていくことが想定される。その時に、ある一定の資格を持っているのではないかと誤解を与えるような名称がスタッフに与えられることにリスクを感じます。放課後子ども教室が制度として名称変更を行っているのであればそれに従っても心配はないかと思うのですが、小金井市独自の呼び方として安全管理員を子どもサポーターと呼んだ場合、それは有資格者ではないかという誤解を保護者の方に与えかねないのではないかと懸念している。

【委員長】 それと混同しやすいのではないかと。これは小金井市がこう変えたいというのを、どうのこうのということではないのかもしれない。疑念がこの会議でだされたということ。一応の報告を受けたけれど、疑念が出たということを確認して本日のこの件については打ち切りにしたいかがですか。そのようにご配慮いただいて、来年度に引き継いで質問いただくと。

【コーディネーター】 今三小では、児童がもう何人か増えたら教室がないということになっていて、4月から本当に困っています。私たちの推進委員の中からの意見で、学童の施設を借りることが可能なかどうか確認をしてほしいという意見が出て、新しく新設もされていますし、何か余裕教室ですとか、そういうことをこちらから申し出ることは可能なのでしょうか。

【内部委員】 今年度の学童の状況についてお話をさせていただきたい。令和元年度の申請者数トータルが1,087名、4月1日現在おりました。令和2年度の入所申込者数が1,212名ということで、これからまだ増えていく見込みを立てています。あかね学童については第4、第5を今年の四月に開所する予定です。あかねも全部の施設合わせて200名の定員があるのですが、今の応募状況というのが219名ということで、あかねに限らずのことですけれど、学校の施設を借りたりですとか、児童館の一部を使うとかというような状況で場所の確保を今図っているところです。まだまだこれから来年、再来年と増えていくという見込みを立てていますので学童の育成室を使ってというよりは、逆に私たちの方から放課後さんの場所を貸してくださいという状況が今。東小は来年度パソコン教室を午前中は学校、午後は学童で使わせていただくという状況で調整をしてきたのですが東小も普通教室を増やさなければいけないということで、放課後で使っていた低学年図書室が普通教室になってしまうということで、その行き場がどうなるかとか、他の学校区でも

調整を図っていかなければいけないという状況で、逆に放課後が学童に入れるようなスペースがないという状況になっています。まだこれから来年度再来年度学校の普通教室自体も増えていく、子どもたちも増えていくでしょうし学童も増えていくという状況がありますので、放課後とも調整しなければならないですし、学校とも話をしていかなければならないという状況だということを報告させていただきます。

【委員長】本当に小金井市が子育て市としての名称を獲得しようというのであればもうちょっと予算なり報酬なりの配慮があって然るべきではないか。今後10年に渡って子どもが増えていくという想定だが、その対応が市としてどうなのか、詰めていかないと極めて状況の悪い中でただコーディネーターやボランティアにやれやれといっても始まらない。そのあたりのことを担当の行政の方は覚悟を決めてそれぞれの方針の打開に向けてご努力をしていただきたい。

時間も過ぎたのでこれをもって第6回の運営委員会を終了とさせていただきます。一年間ご協力ありがとうございました。